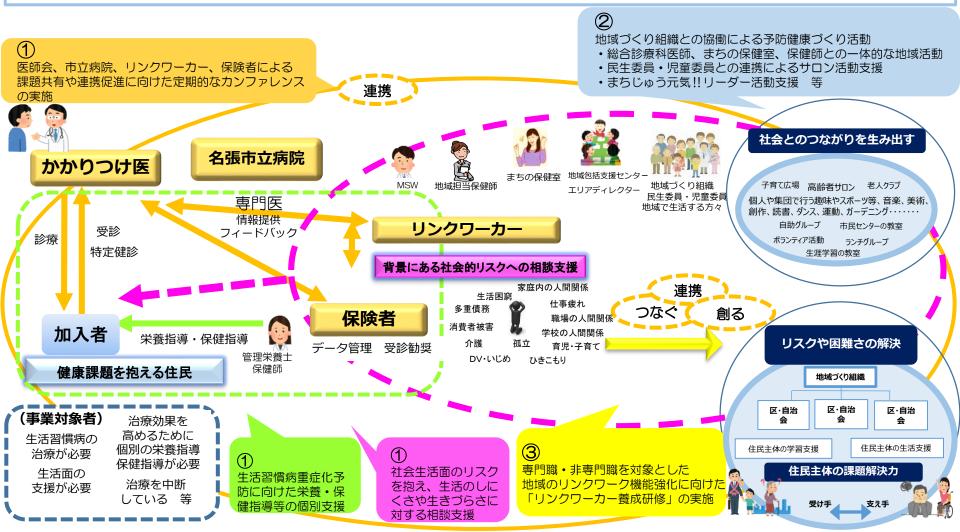
# かかりつけ医と専門医、保険者の協働による予防健康づくり事業と保険者協議会の役割

【目的】特定健診を受診しながら治療につながらない加入者や、かかりつけ医の診療のみでは改善しにくい状況にある加入者に対し、保険者と医師会等による連携により、受診勧奨や個別の栄養指導等の保健指導を行うことで生活習慣病重症化を予防する。また地域コミュニティを基盤とした保健・医療・福祉・介護等の機関が主体的につながり、地域づくり組織等とも協働し、社会的な孤立を防ぐリンクワーク機能の強化を図ることで地域における健康づくりを促進することを目的とする。

【内容】① 医師会、専門医、リンクワーカーの連携による生活習慣病重症化予防の取組と社会生活面のリスクへの相談支援のしくみづくり

- ② 地域コミュニティにおける地域づくり組織との協働による予防健康づくり活動
- ③ かかりつけ医、専門医、リンクワーカーに対する人材育成、プログラム作成



【保険者協議会の役割と期待される効果】

名張市の取組を県内保険者及び関係機関等に横展開(2/17推進セミナーの開催)→ 県内保険者で拡大 → 社会生活面・健康面双方の課題の解決

令和3年度厚生労働省保険局モデル事業「かかりつけ医と専門医、保険者の協働による予防健康づくり事業」

## 取組の成果

### (1)医師会との連携支援

·14件(令和3年7月~12月時点)

(年代) 40歳代1件、50歳代1件、60歳代3件、70歳代5件、80歳代3件、 90歳代1件

(世帯) 一人暮らし6例、高齢夫婦5例

(依頼元) 一次医療機関:内科5例、婦人科1例、眼科1例、総合病院2例

二次医療機関:5例

(特徴) 介護認定あり11例 うちサービス利用5例、

拒否や経済面で利用せず6例、

認知症あり7例、精神・知的・発達等の障害あり5例、

虐待関連事例3例、経済困窮状態4例

•FAXによる簡便な通信手段を使うことで相互に情報共有の作業量を軽減

社会生活面の情報不足により治療方針を立てにくい医療側の困りの状況を

・フィードバックにより、医療側での社会生活面、地域での支援状況が理解が

深まる ・カンファレンス(1回/2か月): 医師会理事・市立病院総合診療医、国保、事務局

医師会会員への周知に関する相談やアプローチの視点など、医療

と地域のつなぎに関する相互理解を深める意見交流が図れている

## (2)地域の予防健康づくり

①市立病院総合診療科医師・まち保(※)・保健師連携による地域活動 (※)まちの保健室

### 医療機関のない4地域での地域づくり組織と協働した様々な場面での活動展開

·薦原:健康座談会(3地区開催、3地区保留)

・比奈知:健康講座(コロナ/2か所)、健康一口メモ(センター便り、ポスター掲 載)

・すずらん台:健康講座(睡眠/全3か所)、ノルディック(予定)、どんと焼き

・錦生:ウォーキング大会、地域周遊ノルディック(予定)

→医師・まち保・保健師へのグループインタビュー実施予定(3月)

#### ②VOD(フレイル予防プログラム)を活用した活動支援

- ・地域のサロン、健康講座等での活用:12か所 176名 (令和3年7月~1月) →ストレッチ、ウォーキング、転倒予防筋トレ、よくバリ青春体操、シナプソロ ジー等
- 自宅での活用:アクセス数 571件(令和3年7月~10月分)
- →広報なばり12月号まちじゅう元気健康ガッテン!記事掲載により活用増加 めざす

### (3)リンクワーカー養成研修

①地域住民対象のリンクワーカー研修

「ステイホームダイアリー」の活用によるリンクワーカー研修

住民参加者 54名(18歳~78歳) 令和3年11月~

※参加者像:高校生、大学生、支え合い活動等地域ボランティア、民生委員、 介護予防健康づくりリーダー、子育て世代や休学・休職中の引きこもり

傾向の方等

・リンクワーカーの理念「人間中心のケア」「エンパワメント」「共創」を体得するため"交 換日記"を用い、3人1組(3人 $\times$ 18%ループ)で自ら大事にしている思いや地域の活動、 新たな発見などを書き綴り、コロナ禍でも安全につながり合うことができるダイアリー を通して、自分や相手が大事にしていることに気づき、新たな仲間づくりから資源創出

につなげる取組が始まっている。 ・遠方で下宿している地元出身の大学生の参加もあり、離れていても地域を大切に思 う若い世代とつながり合うことができ、現役ボランティア世代の活力となっている。 ・地域での活動を交流し合う中で、相互に支援し合おうとするつながりも生まれてきて

いる。 ・引きこもりぎみの参加者が、相手の発信情報をきっかけに外に出かける等行動変容

も生まれている。 新たなつながりを求めている前向きな住民が参加していることで、多世代・多分野で の交流が広がり、今後さまざまな場面での気づきや支援の輪につながる等の展開が 期待される。

参加者が地域活動を発見したり資源創出したりするために地域資源データベースを 導入予定

### ②名張市立病院との合同研修

「できることもちよりワークショップ」(令和3年11月28日実施)

参加者 41名(名張市立病院18名、看護学校6名、行政17名)

生きづらさを抱える事例を通し、立場役割を越えて支え合い支援者間の関係構築につながった 受講者の声(アンケートより) ↓

医療のことしか知らなかったが各々の分野が話し合えれば孤立しないように思う まず、人としてできること、つながることが大切だと感じた

皆さんと思いの共有ができたことが大変心強く、今後の業務への助けになる 行政が病院の方々と普段交流できていないのは市民にとっても損失

## (4)「社会的処方推進セミナー」

令和4年2月17日予定(オンライン)

近藤尚己教授基調講演、取組報告、鼎談(近藤教授、厚生労働省保険局、名張市)

# 課題

### (1)医師会との連携支援

- ・<mark>緊急対応が必要なハードな事例が多く、</mark>予防介入の段階ではない事例が多い
- →生活面での支援状況等事例の報告を重ねることで、徐々に 予防視点からの支援依頼も増えていくのではないか
- ・件数増加に伴い、支援対応可能な<mark>体制づくりや人材の確保が</mark> 必要
- →事務局や専門職のみでは対応厳しい。
  地域での支援者、ネットワークづくりの取組が併せて重要
- ・要介護認定はあるが、本人拒否や経済事情があり、サービス 利用に至っていない事例が半数以上みられ、医療サイドから 社会生活面の状況把握がしにくい
- ・本人との関係構築、資源へのつなぎ、仲間づくり、資源創出な ど伴走支援には一定の時間が必要となる
- →医療が期待するスピード感 とのギャップ
- ・つなぎ先となるインフォーマル資源が不足している
- →創出の取組が併せて必要
- ・医師により、社会生活面への支援の視点・認識に差がある

### (2)地域の予防健康づくり

### ①医師・まち保・保健師連携の無医地区での活動

- ・地域は継続実施を期待しているが、名張市立病院総合診療科の医師が地域へ出向ける体制が確保できるか
- ・市民が求める地域から必要とされる病院運営を進めるうえで、本活動に関して医師以外にも地域視点をもつ理解者を 増やすことも必要である

### ②VODを活用した活動支援

- ・デジタル操作に不慣れな高齢者は、個人で視聴することが難しい面がある(IDやパスワード入力等)
- ・高齢者向けには、みんなで視聴しながら実践するサロン等での実施が望ましいが、新型コロナ拡大の影響で思うような実施に至れなかった地域が多い

### (3)リンクワーカー養成研修

#### ①地域住民対象のリンクワーカー研修

- ・研修にありがちな座学やグループワーク等ではなく、交換日記を活用する 研修スタイルとしたことから、趣旨が理解されにくい面もあった
- ・支え合い活動の次世代の担い手にすぐにつながる取組ではない(即効性 は低い)ため、参加呼びかけに対し拒否的な地域もあった
- ・交換日記を通して、自分を振り返り、相手を理解し、仲間を増やし、新たなつながりのコミュニティを築いていく本取組には一定の時間が必要であり、 単年事業として効果をあげることは難しい
- 単年事業として効果をあげることは難しい
  ・生きづらさを抱える方と出会う場面は様々であり、専門職のみならず、地域における伴走支援者としてのリンクワーカーは必要不可欠。幅広い分野での活動が期待されるため、各々の意識や技術を磨く資質向上のための継続した人材育成・研修等の取組が重要である
- ・リンクワーカーの活動や支援等の資源の見える化

### ②名張市立病院との合同研修

- ・受講者割合は限られたものであり、単発実施では効果が下がるため、 継続した研修実施に向けた体制を構築する必要がある
- ・今回の学びを現体制の中でどう組み込んでいくか、病院との継続した 検討が必要である
  - →受講者(複数名)へ事後インタビューを予定
- ・「できることもちよりワークショップ」の満足度が高く継続希望も多いが、 ファシリテーションの人材が不足している
- →今回実施したワークショップについて、市内で認定ファシリテーター 養成等により効率的な研修実施を図る必要性がある

### (4)「社会的処方推進セミナー」

社会的処方の実践、地域共生社会の実現に向けた取組の県内波及効果がみられるか